

ナショナルバイオリソースプロジェクト

中核的拠点形成プログラム（オオムギ）平成19年度運営委員会議事次第

日時：平成19年8月23日 14時から17時00分

場所：岡山大学資源生物科学研究所 小会議室

参加者：

代表者	武田 和義	岡山大学資源生物科学研究所	教授
課題実施者	佐藤 和広	岡山大学資源生物科学研究所	准教授
委員	最相 大輔	岡山大学資源生物科学研究所	助教
委員	武田 真	香川大学農学部	教授
委員	掛田 克行	三重大学生物資源学部	准教授
委員	山崎由紀子	国立遺伝学研究所	准教授
委員	小松田隆夫	農業生物資源研究所	上級研究員
委員	木原 誠	サッポロビール(株) バイオ研究開発部	チーム長
オブザーバー	加藤 鎌司	岡山大学農学部	教授
オブザーバー	辻本 壽	鳥取大学農学部	教授
オブザーバー	吉原 剛	ナショナルバイオリソースプロジェクト	事務局長

配付資料：

資料1 平成17年度末NBRP評価報告書（抜粋）

資料2 平成18年度および第I期成果報告書

資料3 ナショナルバイオリソースプロジェクト中核的拠点整備プログラム申請書（様式1-3）

資料4 同上選考結果

資料5 ナショナルバイオリソースプロジェクト基盤技術整備プログラム申請書概要（様式1）

資料6 同上ゲノム情報等整備プログラム申請書概要（様式1）

資料7 同上選考結果

資料8 平成19年度業務計画書（オオムギ）

議 事

紹介事項

上記配付資料の説明

協議事項

1. リソース内容の確認について

紹介事項で説明した資料に基づいて、平成19年度以降の収集・保存・提供業務にかかわるリソース内容に対する確認を行った。質疑応答は以下の通り。

- ・ 系統種子の標準配付量（栽培系統 20 粒、野生系統 10 粒）は、生理学的な研究等には不足する場合が多いので、少数の標準的な系統について大量に増殖して配付することを検討する。現在でも共同研究として、必要な系統を事前に増殖して配付する事例はある。このようなサービスによってユーザーの増える可能性がある。ただし、純度の高い種子を大量に準備することは難しいので、配付量の多い系統の品質管理は必要十分な程度になる見込み（機械収穫の導入等）である。
- ・ 提供数の単位は配付件数となっているが、農水省のジーンバンクでは配付点数となっている。系統についてみれば配付対象約 6,000 系統に対して第一期 5 年間で、のべ 1 万系統近くを配付しており、配付点数としてはかなり多いと考えて良い。
- ・ cDNA はクローンを配付しなくても NBRP のデータベースで配列検索を利用することが多い。特にコムギの研究者はオオムギの cDNA 配列を良く利用しているが、その情報利用を NBRP の成果とすることはできないかという質問があり、情報センター山崎運営委員から今後論文検索など検討してみたいという発言があった。

2. オオムギの研究内容とリソースとの関連について

運営委員およびオブザーバーの現在行っている研究とリソースとの関連において必要な事業の内容を検討した。

- ・ オオムギの栽培方法や基礎的なプロトコルを掲載したホームページを作製・公開することが提案され、準備を進めることを確認した。

3. 運営委員会の構成について

NBRP 事務局より運営委員長をユーザー側から選出する方針が説明され、運営委員会として香川大学武田真教授に依頼することとし、本人から了承された。

4. その他

- ・ オオムギとコムギの研究者の交流について NBRP を核にして進めてほしい。（コムギを専門とするオブザーバーより）
- ・ ムギ類研究者のメーリングリストである **mugi-net** も利用が減っているので積極的な利用を図る必要がある。

以上

（書記 佐藤和広）